

東洋高等学校
吹奏楽部

3rd

Summer Concert



日時: 2021.8.24(火)

17:00 開場

17:45 開演

板橋区立
文化会館大ホール



暑い夏に、熱い思いを

～吹奏楽部第3回サマーコンサートに寄せて～

校長 石井和彦

昨日（8月10日）、東京では今年初めての猛暑日となり、八王子では39度を記録したそうです。東京に発出された4回目の緊急事態宣言が8月31日まで延長となる中で、賛否の声が飛び交ううちに実施されたオリンピックも8日に幕を閉じました。都内の新型コロナウイルス感染者数は5日の5千人余をピークにその後は減少していますが、予断は許されない状況です。

長く続くコロナ禍により、経済活動その他の制限や停滞が報道されていますが、同時に、目に見えないところで人の心に大きな変化が生じていると思います。それは、オリンピック開催に象徴されるモヤモヤ感ではないでしょうか。選手は真剣に、これまで培ったものを発揮しようと競技に専心しているのに、それを傍で精いっぱい応援することもできない。移動は制限され、人と人が素顔で対面することも禁じられる……。程度の差はあれ、誰もが閉塞感を感じ、ストレスをため込んでいるのではないのでしょうか。

この閉塞感を打破してくれるであろうもののひとつが音楽だと思います。音楽も「心の食べ物」（注）のひとつだと思うのです。

昨年度に引き続き、吹奏楽部もその活動に様々な制約を強いられてきています。だからこそ逆に、音楽を通して聴く人々に何を伝えられるか、を模索しているのだと感じています。「炎舞の代」の皆さんが、その名の通り熱い思い、すなわち生きる希望や喜びを、演奏を通して聴く人に届け、今の息苦しい＝生き苦しい状況を打ち破ってくれることを、おおいに期待しています。

（注）「心の食べ物」……千葉・館山市で、元美術教諭の松苗禮子さん（85歳）が紙芝居「小沼の花咲和尚さん」によって伝える、太平洋戦争中に政府の食糧増産命令に反して花を育て続けた益禅師というお坊さんの逸話「花は心の食べ物」から。（8月11日 Yahoo! ニュース）

復興への熱い夏

顧問 稲福祥

本日は後日配信にも関わらず、東洋高等学校吹奏楽部第3回サマーコンサートをご覧ください、誠にありがとうございます。そして、演奏会間際になって無観客開催を決定したことにより多くのお客様、スタッフにご迷惑をおかけしてしまいましたこと、この場をお借りしてお詫び申し上げます。

さて、昨年からの猛威を奮っている新型コロナウイルスの影響によって部活動も思うように活動ができず、本校の吹奏楽部が培ってきた音楽やチームのカラー、真正面から仲間と向き合う心、一つ一つが失われていきました。しかし、救いだったのは、夏のコンクールで本選金賞を取りたいという高い目標を2年生が発案し、この炎舞の代の目標としたことです。大きな夢への挑戦は決して楽ではないことを知り、辛いと感じた時間の方

が多かったかもしれません。でも、思いが通じ合った時に生まれる音楽、チームの雰囲気にはそれ以上の喜びがあり、誰かの喜び姿が見たくて、みんなで直向きに音楽に打ち込むことができた経験は去年の夏には求めてもできなかった経験でした。私は部員たちのおかげで、「本気でゴールド金賞を取らせてあげたい」と思うことができ、そのためにできる力全てを注ぐことができました。少しずつ自分達の音楽やサウンドが良くなっていると感じ、大きな夢に近づけているような手応えが感じられたことは本当に嬉しかったです。かつての『東洋吹部』が帰ってきたような、そんな気持ちになることができました。

そんな夏の集大成を見せたいと思って準備をしてきたのがこのサマーコンサートです。このような状況下でも様々な場面で支えてくださっている皆様に喜んでいただきたいという思いと、演奏を聴いていただける経験をなかなかできず感動体験のチャンスの場が減ってしまっている部員たち、卒部する3年生にとって最高の舞台を作ってあげたいという思いでいました。直接音を届けられない、直接皆さまの表情や熱気を感じながらパフォーマンスができないことは本当に残念でなりません、この厳しい夏と一緒に乗り越えてきたこのチームなら、本番に向けてモチベーションを下げることなく最高に心のこもった熱いパフォーマンスをしてくれるに違いありません。生でなくても感動体験を届けられると信じて……。

“想い”を込めた演奏を

統括部長 森井愛海

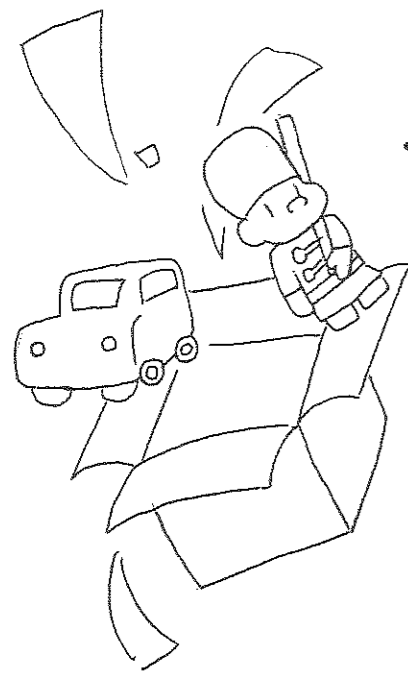
本日は東洋高等学校第3回サマーコンサートにお越しいただきありがとうございます。

今年度は「炎舞」というスローガンを掲げて活動しています。「炎舞」には、人数の多さを活かし、今までの代よりも更にパワーアップして、炎のようにダイナミックな熱い演奏をしたい。聴いてくださる人達を炎の明かりで魅了させることができるような音楽を奏でたい。という意味が込められています。

私たちはこの夏、8月10日の吹奏楽コンクールで本戦金賞という目標を掲げ練習に励んできました。しかし、昨年度はコンクールが中止となり、私たち2学年は何もかもが初めての状態でスタートでした。分からないことが多すぎて、みんなの熱量やモチベーションに差が生まれ、なかなか前を向けない日々が続きました。そんな中、私たちを見捨てず叱咤激励して下さったのが顧問の先生方、そして2人の灯の代の先輩方でした。炎舞の代を応援して下さっている人がたくさんいること、去年コンクールに出ることが叶わなかった先輩たちがいること、色々なことを私たちに思い出させてくれました。このままではだめだと、私達を奮い立たせてくださいました。

本番では、コンクールに出場出来ることに感謝をして、絶対に金賞代表を掴むと心に決めて、演奏しました。しかし、結果としては本選に出場する切符どころか、金賞すら掴むことは叶いませんでした。悔しい思いをみんなで共有し、「この銀賞を意味のあるものにしよう」、「無駄にしないようにしよう」とたくさん反省しました。そして、本日のコンサートに向けても、この悔しさをバネに限られた時間を最大限に意味のあるものにして努力を重ねてきました。コンクール金賞にも値する演奏をお届けしたいと思っております。

この夏、色々なことを吸収し、成長した炎舞サウンドをお楽しみ頂けたら幸いです。感謝の気持ちを大切に、精一杯演奏します。ぜひ、最後までお楽しみください。



-プログラム-

-第1部-

トイズ・パレード

作曲:平山 雄一

ふたつの伝承歌

作曲:高橋 宏樹

となりのトロ~コンサート・バンドのためのセレクション~

作曲:久石 譲 編曲:後藤 洋

蒼氓愛歌~三つの異なる表現で~

作曲:清水 大輔

-第2部-

英雄の証「モンスターハンター」より

作曲:甲田 雅人 編曲:森田 浩

カイト

作曲:米津 玄師 編曲:金山 徹

怪物

作曲: Ayase 編曲:郷間 幹男

炎

作曲:梶浦 由記 編曲:波明野 直彦

リトル・マーメイド・メドレー

作曲: Alan Menken 編曲:星出 尚志



一曲目紹介

トイズ・パレード

作曲:平山 雄一

この曲は、平山雄一氏が「アメリカのミュージカルで登場した人物たちが全員で合唱しているような場面」をイメージして作られ、第30回朝日作曲賞を受賞し、2021年度吹奏楽コンクールの課題曲1に選ばれました。

メロディーの音域や楽器の移り変わり、モチーフの繰り返し、強弱やテンポの変化を捉えた時に物語が浮かぶようなキャッチーなメロディーとコミカルなリズムを意識して作曲を始め、ディズニー映画のようなとにかく明るい楽しいマーチとなっています。アメリカの軍楽隊の行進曲の主流のテンポである「♩=120(1分間に♩を120個入れたテンポ)」が設定されており、曲名にもある「トイズ(おもちゃたち)」が歩きながら歌っているようなパレードを想像することができます。どんなキャラクターが登場するのか等の情景が思い浮かんで、聴いていて楽しい曲です。

私たちはこの曲に歌詞をつけて部員全員が同じ場面を想像して演奏できるようにしました。最初のファンファーレの花火のような華やかさ、途中の低音パートと高音パートの音量・音色の変化を用いた対話、Lento(遅いテンポ)からのテンポの移り変わりなどに注目してお聴き下さい。

(文:中山 つぐみ)

〈「トイズ・パレード」東洋吹部オリジナル歌詞〉

作詞者:藤本 直人 赤羽 海音 鈴木 美伶 木村 心香 森川 美希 橋立 心美 木村 天音

海音と愛海と仲間たちで吹こう 稲福先生についていこうよ 愛海 海音 美伶 愛美たち一緒に
みんなでやろうよ みんなでつくろう さあかざりつけをしよう
かざりつけに 何が必要かな 風船ケーキに クラッカー それぞれ集めて持ってこよう
僕こんなの持ってきちゃった つらいこともけんかもした 頑張ろうよ うちならできるはず
君がいつも励ましたね 強くなれたんだ ありがとは魔法の言葉 あの光みたいに
ひとつになろうよねえ そしたらつらいことも乗り越える炎舞なら
ルルルル私たちのステップは止まらない リズム楽しめば優しくなれるさ
君もほらオリジナルの音色を
希望忘れないで 妖精もバレリーナもふわり舞い踊る ティーカップにナイフの用意はいかが?
歩いてきた道のりは いつまでも消えやしない 炎を灯りに 鼓を破り さあ夏へと踏み出そう
四星は煌めき 月明かりは照らす 私たち導く 一瞬の輝きに思い乗せて
みんながいればへっちゃらさルルル
誰かが来たような気配を感じる 気づかれないように静かに歩く いなくなったみたい
みんなで踊ろう 一緒にパーティー楽しもう
今日までたくさんのことがあった 僕たちみんなで乗り越えた だからきっと大丈夫
80人でさ 合わせて 前に進み 夢と一緒に獲ろうよ 本選金賞をみんなで大さーしをもらおう
一緒にね

二つの伝承歌

作曲：高橋 宏樹

この曲は、高橋宏樹によって2012年に作曲されました。高橋氏は、金管、吹奏楽編成を中心とした作曲及び編曲活動を行っており、全日本吹奏楽コンクールの課題曲を作曲したこともあります。

第1楽章は8分の9拍子のへ単調でゆったりとした哀愁の漂う民族性の強い曲です。第2楽章は第1楽章とは対照的な4分の2拍子のへ長調で楽しく明るい舞の雰囲気です。

伝承歌という曲名ですが、作曲者はどこの国に伝わる歌なのかは特定していません。私たちは、第1楽章は昔からある神秘的で、どこか分からない異国の地を、第2楽章は華やかな祭で大勢が楽しく踊っている場面をイメージしました。第1楽章と第2楽章は真逆のイメージなので、それらを表現できるように演奏します。

(文：橋本 美優)

となりのトトロ ～コンサート・バンドのためのセレクション～

作曲：久石 譲

この曲は1988年に公開されたジブリ映画「となりのトトロ」の音楽から2008年に書き下ろされた作品です。作曲者は「風の谷のナウシカ」をはじめ数々の宮崎駿監督の音楽を担当してきた、「久石譲」です。また、編曲者は主に吹奏楽の場で活躍している「後藤洋」です。

この物語は療養中の母のいる田舎へ引っ越してきた小学生のサツキと妹のメイが子供の頃にしか見えないと言われる謎の生き物のトトロたちと出会い、過ごしていく姿を描いています。

この曲は6部構成のメドレーとなっています。1「さんぽ」はオープニング曲で田舎に着くまでの楽しみにしている姿を描いています。2「五月の村」は川のせせらぎや自然を表現します。3「すすむたり」はメイがすすむたりを探すシーンです。打楽器の soli の響きにご注目下さい。4「風のとおり道」は神秘的な大樹の様子を表現します。ユーフォニアム solo にご注目下さい。5「ねこバス」はメイとサツキがお母さんにとうもろこしを届けに行くシーンです。6「となりのトトロ」はエンディングです。とうもろこしを届けてハッピーエンドです。曲と曲をつないでひとつのストーリーを作ります。自然いっぱいのトトロの世界をお楽しみください。

(文：新海 結姫菜)

蒼氓愛歌～三つの異なる表現で～

作曲：清水 大輔

この作品は清水大輔氏がソノーレ・ウィンドアンサンブルの委嘱により2011年から書き始め、2012年の同団体の第20回記念定期演奏会にて初演された11分ほどの作品です。

蒼氓(そうぼう)とは人民、蒼生などの意味を持ち、その言葉に「愛歌」と付け加えることで「人民に愛される」という意味の造語的なタイトルになりました。副題の通り、全く異なる表現法が用いられた三つの曲が、小組曲のような構成となって、それが切れ目なく演奏されます。

第1楽章「序」はファンファーレ的なイメージで、この作品を支配する様々なモチーフが登場する楽章です。トランペットやソプラノサクスのモチーフにご注目ください。終わりには、ピッコロによって3楽章で登場する遠い故郷を感じさせるような懐かしさのある旋律が断片的に歌われます(この旋律を私たちは「炎の鳥の主題」と呼んでいます)。しかし、不穏な余韻を残し、幕を閉じます。

第2楽章「舞」は打楽器を多用したリズムミミックな楽章で、8分の10拍子を基本とした構成になっています。日本的にも感じられる旋律も登場しますが、この楽章はロック・ポップを意識して作曲したそうです。第3楽章「歌」はアフリカンテイストとアジアンテイストが融合した壮大な楽章です。

作曲者の清水大輔氏はこの楽章に対して、「この楽章で登場する旋律に何かを感じて頂けたら、私の強く思う『何か』と繋がるのではないかと考えています。」とおっしゃっています。ぜひその『何か』について考えながらお聴きください。

私達「炎舞の代」がこの曲のように多くの人々に愛される代になることを願って、演奏します。

(文：石渡 日奈子)

～炎舞の思い出～



〈3年生を送る会〉
先輩と思い出のラブソングを
アレンジして劇にしました。

〈レクリエーション〉
パートを越えて、
団結力を高めることが
できました。

「トイズ・パレード」に
歌詞をつけて歌いました。

灯から炎舞へ

愛海 海音の代
炎舞
蒼氓愛歌



〈ホール練1日目〉
炎舞の代になって
初めての外部の練習に
なりました。

〈ホール練2日目〉
1人1人が合奏の中での
自分の役割を理解して
演奏することが出来ました。

〈ホール練3日目〉
より本番に近い環境で
響きのあるサウンドを
作ることができました。

オリンピック開会式当日に
ブルーインパルスを
屋上で見ました。

〈コンクール当日〉
色々な想いを胸に
全力で挑みました。

2年生から稲福先生に
プレゼントを渡しました。

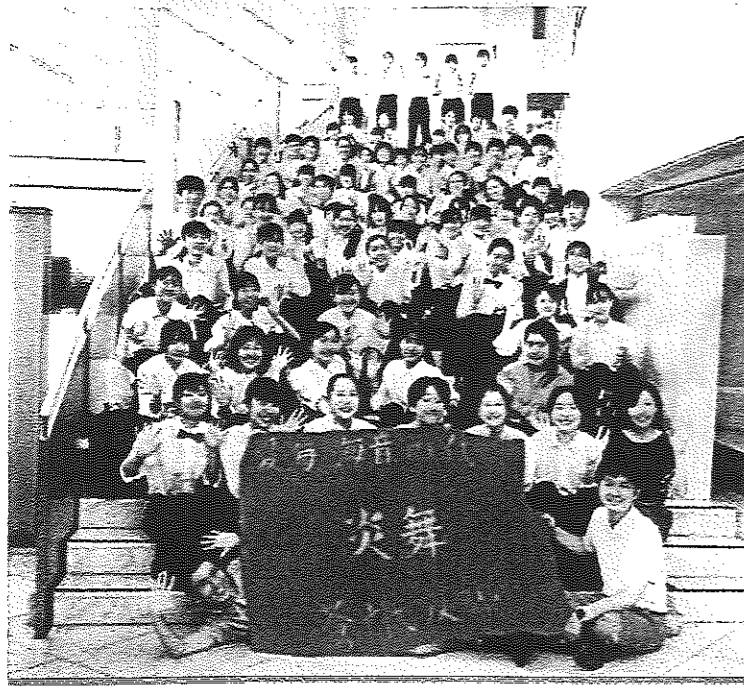
そして本日のサマーコンサートで
炎舞の新たな思い出を刻みます。

—コンクールを終えて—

私たち「炎舞の代」は8月10日に行われた第61回東京都吹奏楽コンクールA組に出場しました。予選突破、本選金賞を目指してひたすら前に進み続けた私たちでしたが、結果は予選敗退、予選銀賞でした。私たちが掲げた目標には遠く及びませんでした。それでも私たちは自身の成長と自信を得られた、そのような夏になったと思います。ここまでご指導して下さった顧問の先生方、コーチの先生方、私たちの活動を理解し応援し支え続けて下さった保護者の皆様、学校関係者の皆様、OB・OGの先輩方、感謝申し上げます。ありがとうございました。

例年通りであれば、前年のコンクールを経験している3年生と2年生が主体となり、夏休み期間の1日練習や新潟で行われる夏合宿で部の結束やコンクールへの士気を高めていくはずでした。しかし、昨年度のコンクールはコロナ禍の影響により中止。今年度は2年生と1年生にとって初めてのコンクールとなり、加えて追い討ちをかけるように決まった練習時間の短縮、夏合宿の中止。私たちは崖っぷちの戦いを余儀なくされました。そのような厳しい状況下に陥ろうとも、私たちは決して夢を諦めず、直向きに自身の弱さと向き合いました。

確かに、結果は「予選銀賞」と目標には届くものではありませんでした。「私たちの力が、通用しなかった」そう考えると悔しい。「悔しい」ですが、私たちに「悔い」はありません。限られた時間、制約の中で私たちは様々な工夫を凝らし、この逆境に挑戦し続けました。自身の弱さを成長させ、不安を自信に変える、そのような夏にすることができたからこそ、今の「炎舞の代」があります。そして、この経験を糧にして、これからも私たちは前へ進み続けます。



会いたい人にも会えない、思うように音楽活動ができない、時間と制約の中でもがき続け、私たちの心に灯った小さな『灯』は、この経験を経て、大きな『炎』となり、今もなお私たちの中で輝き続けています。私たちの想い、そして音楽の持つ力で、今日の演奏会が皆様の心を熱くし、心を動かし感動させられるものになることを願って。

音楽部長 赤羽海音

第61回
東洋高等学校
吹奏楽部

炎舞演奏会

会場
ティアラこけい(江東公会堂)
大ホール

曲目
♪蒼氓愛歌〜三つの異なる表現で〜
♪ウィズ・ハート・アズ・ヴォイス 他

日時 入場無料
2022年5月3日(祝・火)
17:00 開場
17:30 開演予定

アクセス
都営地下鉄新宿線
東京メトロ半蔵門線
住吉駅A4出口より徒歩4分